

知的財産報告書 2011年版



2011年8月

井関農機株式会社

目 次

ごあいさつ	1
1. 研究開発の指針	2
2. 研究開発の方向性	2
3. 知的財産状況	4
4. 技術の市場優位性の分析	5
5. 研究開発及び知的財産体制	8
6. 知的財産の取得・管理、秘密保持	9
7. 特許の活用	10
8. 知的財産ポートフォリオに対する方針	12
9. 知的財産関連の訴訟情報	12

知的財産報告書 2011年版 発行にあたって

井関グループは、「農業と農業機械」を経営の基軸とし、その開発、生産、販売を通して商品の機能・性能・品質・コスト・サービス競争力を強化し、商品の差別化や優位性の確保による市場競争力の向上に努めております。農業機械、農業関連商品等のコア技術の創造活動と、その活動で得られた知的成果である発明や創作等を戦略的な知的財産活動によって権利化と活用を図り、新たな創造に繋げる知的財産を重視した事業活動に取り組んでいます。

「知的財産報告書 2011年版」では、コア技術と研究開発の取り組み、特許資産管理、有効発明の発掘・権利化活動、商品デザインの取り組み、商標の取り組み、人材育成、秘密保持、権利の活用、グローバル化への対応、保有特許権や発明表彰、知的財産に関するリスク情報等についてご報告します。

[注意事項]

1. 本報告書は情報提供を目的としており、本報告書により何らかの行動を勧誘するものではありません。
2. 本報告書に記載されている当社の見通し、計画、方針、見込み、戦略、事実認識等、将来に関する記述をはじめとする分析は、当社が現在入手している予測、想定、計画等の情報に基づくものであります。
3. 予測を行うには、すでに実現した事実以外に、一定の前提を使用しています。その前提については、客観的に正確である、あるいは将来実現するという保証はありません。その前提は、内外国の技術や需要動向、経済情勢、競合等の状況にかかわるものであり、前提が変化する結果、本報告書で述べられている、すでに実現した事実以外の事項は変更する可能性があります。
4. 本報告書に記載している特許公開件数、保有権利数等の知的財産データは、当社単独によるものであり関連会社を含んでいません。

ごあいさつ

3月11日に発生した東日本大震災で被災されました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。未曾有の大震災に、当社グループは総力を結集して、一丸となって支援活動に取り組んでまいります。被災地が一日も早く復興することを心よりお祈り申し上げます。

当社は1926年創業以来、農業機械の総合専門メーカーとして一貫してわが国農業の近代化を追求してまいりました。その過程のなかで数々の農業機械を他に先駆けて開発し、市場に供給しております。

世界人口の増加と食糧問題、また今日の食料自給率や国土保全の問題を考えると、農業機械メーカーの社会的使命はますます重要になってくると考えております。「需要家に喜ばれる製品の提供」を通して、わが国ならびに世界の農業に貢献することを経営の基本理念としてこれからも活動を続けてまいります。

井関グループは現在、稲作、野菜作等に関連する農業用機械の開発、製造、販売を主な事業内容とし、フードアクション・ニッポン アワード 研究開発・新技術部門で優秀賞を受賞し、農家の皆様に有用な農業技術の提案を行うなど、ソフトの分野でも積極的な事業活動を展開しております。これらの事業活動について、お客様、株主の皆様、投資家・アナリストの方々をはじめとするステークホルダーの皆様に対し、経営戦略や活動の成果などの企業情報の積極的かつタイムリーな開示に努めております。

従来より決算発表や有価証券報告書において、また会社説明会や新商品発表会などの機会を通じて研究開発活動と成果をご報告しておりますが、本書では、井関グループの研究開発の考え方、活動、成果としての知的財産の状況と活用等についてご報告いたします。井関グループの研究開発及び知的財産を重視した取り組みを皆様にご理解頂ければ幸甚に存じます。

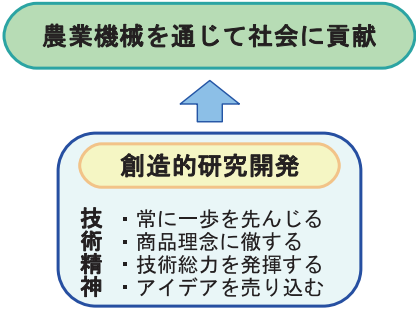
今後も「需要家に喜ばれる製品を提供する」ため、技術革新を進め、知的財産の取得に努めると共に、その有効活用を図り、魅力ある商品開発に取り組んでまいります。



2011年8月
代表取締役社長
蒲生誠一郎

1 研究開発の指針

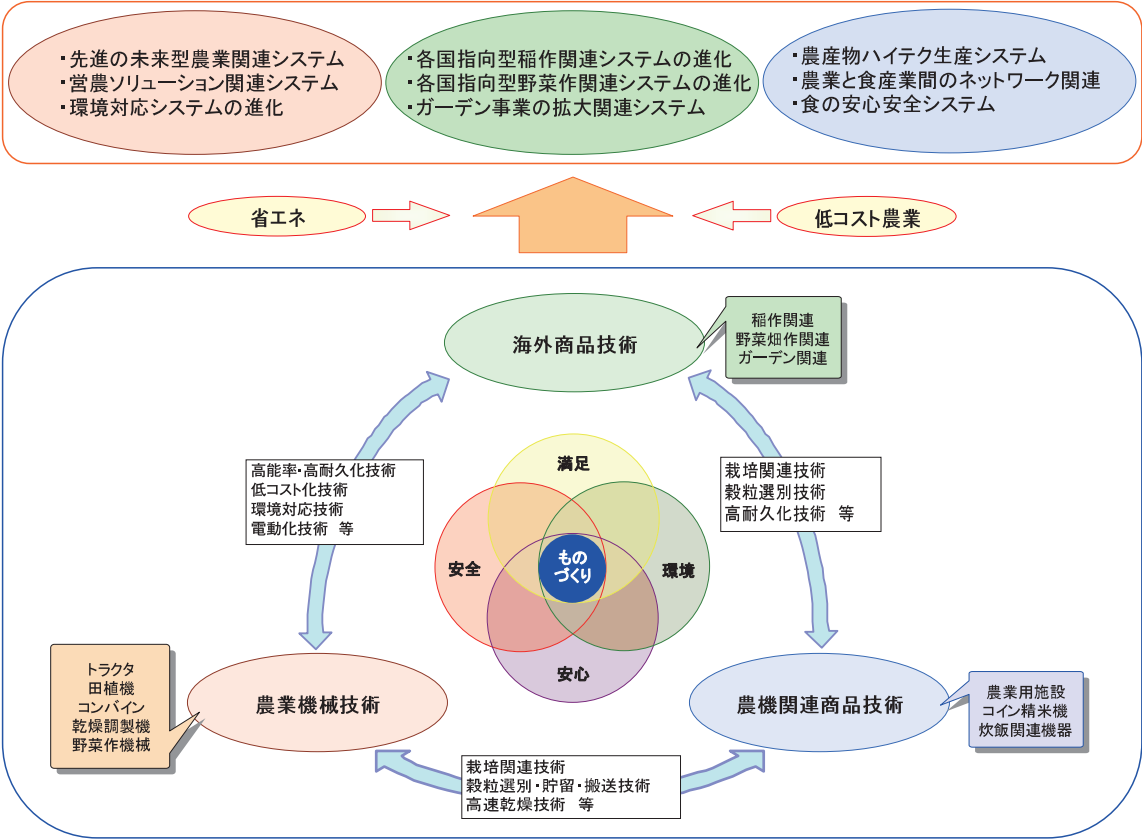
わたしたち井関グループは変化する農業の中で、「農業機械を通じて社会に貢献する」という使命を抱き、技術者一人ひとりが「技術精神」に則って創造的な研究開発を行っています。蓄積した全ての技術を活用し、お客様の視点に立った顧客満足度の高い商品とサービスを提供することにより、農業に貢献してまいります。そして、これからもずっと農業と共に歩んでまいります。



研究開発投資については、中長期的展望に立って需要と市場動向を予測し、計画的な投資を行っています。なお、2010年連結会計年度の研究開発費は約39億円であります。

2 研究開発の方向性

農業機械技術、農機関連商品技術、海外商品技術の全ての領域において、「満足」、「安全」、「安心」、「環境」の4つのキーワードを「ものづくりの原点」とし、3つの領域にそれぞれ方向性を定め、研究開発を推進しています。特に、「低コスト農業」「省エネ」に重点を置いた研究開発により「豊かで持続発展可能な社会」の実現を目指します。



1. 農業機械技術

- 1) **トラクタ** 振動・騒音低減による作業環境改善技術、機体軽量化等による燃費向上・排気ガス浄化装置搭載等による環境対応技術、変速操作性に優れた人に優しい新変速技術、水田・畑作管理作業に優れた走行性向上技術や作業精度向上技術、担い手農家への経営支援技術、走行及び作業安全性向上技術、ユニバーサルデザインを追求した操作性向上技術の研究開発に取り組んでいます。
- 2) **田植機** 自律直進制御技術、作業負荷を軽減する省力化制御技術、変速操作及び旋回操作等の操作性向上技術、大規模担い手向けの高速・高精度植付技術、エンジン制御及び電動化等による省エネ・環境対応技術、低コスト農業支援技術、田植前後作業の省力化技術の研究開発に取り組んでいます。
- 3) **コンバイン** エンジン燃焼効率の向上・機体軽量化による燃費向上・排気ガス浄化装置の搭載等による環境対応技術、騒音低減による作業環境改善技術、脱穀能力向上・穀粒排出速度向上・穀粒回収率向上等による収穫作業の省力化技術、作業安全性向上技術の研究開発に取り組んでいます。
- 4) **乾燥調製機** 乾燥機は、高速乾燥技術、乾燥エネルギーの効率的利用技術、低騒音・低振動を追求した作業環境改善技術などの研究開発に取り組み、籾摺機は、操作性向上技術、残米低減技術の研究開発に取り組んでいます。
- 5) **野菜作機械** 水稻技術で培ったノウハウを活用して、育苗・土作り・移植・栽培管理・収穫・調製の野菜作一貫体系を進め、操作性・作業性向上技術、低コスト・省力化技術、環境対応技術、地産地消支援及び新たな作物への研究開発に取り組んでいます。
- 6) **耕うん機・管理機** 環境に優しく、かつ取り扱いやすさを追求した技術、作業形態に合わせた多様なアタッチメントの研究開発に取り組んでいます。
- 7) **エンジン** 農業機械特有の作業性能を最大限に発揮するエンジン制御技術、低振動・低騒音化技術、排気ガス浄化装置の搭載による排気ガスのクリーン化技術、燃料噴射制御等による低燃費化技術の研究開発に取り組んでいます。

2. 農機関連商品技術

高品質・高収量を目指した農産物ハイテク生産システムの環境型植物工場、農業施設用情報化技術、バイオマス関連技術、播種育苗施設の省力化技術、野菜育苗の多品種汎用技術、節水型の洗米炊飯技術の研究開発に取り組んでいます。

3. 海外商品技術

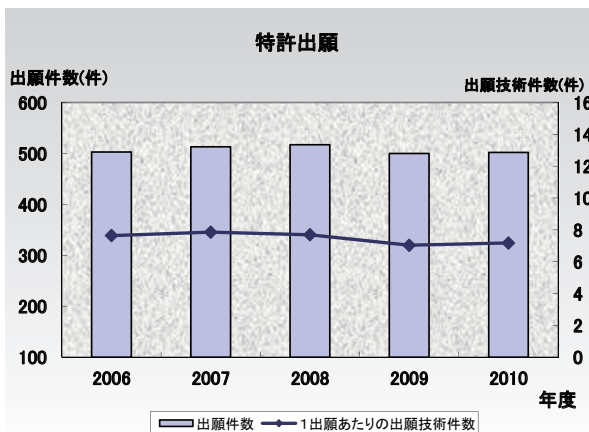
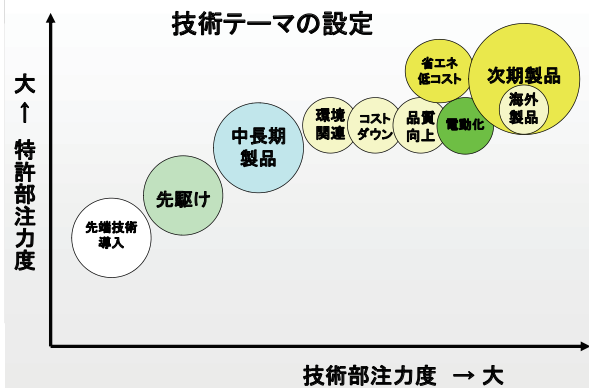
欧州・北米向けにはローダー等重作業機装着時の操作性向上、無段変速システムの走行変速性能向上、低振動・低騒音を追求したトラクタ、各国に最適な仕様を追求した低価格トラクタ、コレクタの脱着の容易化や低重心化を追求したガーデン機械、中国向けには現地特有の作物条件や圃場条件に対する適応性を向上させることにより作業の能率や精度の向上と省力化を図り、油圧系や作業部等の高耐久化やメカ制御技術等による低価格化を追求した田植機・コンバイン・野菜作機械、韓国・台湾向けには高速作業技術・高精度作業技術等の高能率化・高機能化を追求したトラクタ・田植機・コンバイン、東南アジア向けには現地条件の適応性を追求した高耐久・低コスト型のトラクタ・田植機の研究開発に取り組んでいます。

3 知的財産状況

1. 発明の創出・特許戦略

当社は、コア技術を中心とした技術テーマ毎に創造性手法を用いた独自の発明提案活動を推進し、発明の「質」の向上と「量」の拡大を図っております。

技術者は発明・創作に対する強いこだわりと旺盛な意欲を持っており、近い将来実用化する技術に関する発明が活発に創出されています。提案された発明は社内規程と審査基準に基づく厳しい選別を受け、当社独自の特許出願効率化策を用いて積極的に出願し、特許網の構築を進めています。



2. 意匠・商標戦略

魅力あるデザインと親しみ易いペットネームはそれぞれ意匠権、商標権として蓄積し、他社商品と差別化・識別化し、デザインの保護強化及び当社ブランド価値の向上を図っています。

商品デザインの考え方

- デザインの基本 ・使用環境にマッチした魅力ある商品 ・長く使って、より愛着を感じて頂ける商品
- デザインの進め方 ・現場の確認、市場の声 ・デザイン動向の分析とコンセプトの構築
- デザインの展開 ・井関らしさの継承(商品特性、商品カラー) ・時代性を感じさせる新しい魅力の創造
- デザインの方向性 ・魅力を感じ、使ってより満足して頂けるデザイン ・農業機械の未来を先取りしたデザイン

商標の取り組み

- ペットネームの考え方
 - ・農家にとって農業機械は共に仕事をするパートナー
 - ・土を作り、苗を植え、管理し、収穫から出荷までの日々の作業で、親しみと愛着あふれる農業機械
- 当社の代表的な登録商標
 - ・田植機の代名詞ともなった「さなえ」 ・世界にも類のない自脱型コンバインの火付け役となった「FRONTIER」
 - ・代表的トラクタの「ジラス」 ・耕うん機の「エレ菜」 ・乾燥機の「ドライボーイ」 ・籾すり機の「スーパーメイト」
 - ・計量選別機の「ポリメイト」 ・野菜移植機の「ナウエル」 ……など
- 時代に先駆けた戦略
 - ・農業構造の二極化、低コスト農業・省エネに対応する販売戦略に連動したペットネームの設定

3. 海外知的財産戦略

海外においては、中国等のアジア諸国、米国、欧州をターゲットとした事業戦略に整合する厳選した特許権・意匠権・商標権等の知的財産権の取得を進めています。

4 技術の市場優位性の分析

1. 農業機械技術

トラクタ、田植機、コンバイン等の新商品について、特徴とその織込み技術を紹介します。

1) トラクタ コモンレール式電子制御燃料噴射システムを搭載した大規模担い手向けトラクタ「T. JapanVシリーズ」を開発しました。TJWで好評のATシフト・アクセル変速・アクセルメモリに加え、「グリーンモード」・「最高速規制制御」を装備して、高精度な作業及び走行を実現しました。また、セミクローラ仕様では、当社従来機対比で大幅な軽量化を実現しました。

グリーンモード エンジンの出力特性を標準モード(出力優先モード)とグリーンモード(燃費優先モード)の2パターンに切替可能とし、低負荷作業時にはグリーンモードを選択して燃料消費を抑制すると共に騒音や振動を低減し、環境に優しい作業を行うことができます。

アクセル変速 油圧クラッチを電子制御し、動力遮断時間のないスムーズな変速を実現します。また、アクセルペダルを素早く踏み込んで増速する時には、制御装置がエンジン回転速度を自動調整しながら主変速を自動的に高速側に変速するため、変速ショックの少ないスムーズな加速ができ、プラウなどの牽引作業や路上走行を快適に行えます。

最高速規制制御 アクセル変速での増速段数の上限を規制することで最高車速を制限し、畦道等での走行を容易に行えます。

コンパクト化を図りつつ、ホイールベースを長くすることで安定した作業が行える小規模農家向けトラクタ TQシリーズ「トラQ」を開発しました。好評のオートリフト・ワンタッチ作業切替ダイヤル・フィンガップレバーに加え、「電動スーパーフルターン」を備え、簡単な操作で快適な作業が行えます。

電動スーパーフルターン 前輪増速操作を電動化し、従来の油圧式の操作系に比べてエンジンに掛かる負荷を軽減し、機敏な旋回が行えます。

2) 田植機 好評を博している先進のZ機能(さなえZターン・さなえZシフト・さなえZロータ)を備えた「乗用田植機PZシリーズ」を更に進化させた「乗用田植機PZ3シリーズ」を開発しました。「NewさなえZシフト」・「電動さなえZ苗レール」を新たに装備すると共に、さなえZロータの機能を更に向上させた「NewさなえZロータ」を備え、省エネ・作業省力化・高精度植付を実現しました。

NewさなえZシフト 電子制御エンジン・スロットル操作用モータアシスト機構の搭載により、変速レバーを操作するだけで田植作業と路上走行に共に適したエンジン回転速度に自動制御し、スムーズな発進、停止が行え、変速フィーリングが向上し、水田における田植作業でも路上走行においても良好な走行性能を発揮します。また、後進時には変速レバーの最高速度変速位置でエンジンの回転速度を遅くして急加速を防止し、安全に後進できます。また、エンジン回

転速度を高回転速度側に制御する高出力モードにより、最大19馬力の高出力を実現し、高能率作業が行えます。更に、エンジン回転速度を低回転速度側に制御するグリーンモードにより、無駄な燃料消費を抑制して最大約15%の低燃費化を実現し、環境に優しい田植作業が行えます。

電動さなえZ苗レール スイッチ一つで、予備苗載台を上下多段に配置した苗枠から、予備苗載台を前後に接続したフラットな苗レールに変更でき、機体に搭乗するオペレータも畦にいる補助者も苗の補給作業が簡単に行え、苗補給作業の省力化を図りました。

NewさなえZロータ 前方からの水流を円滑に後方へ流す新形状の駆動フレームを採用して、大きな波立ちを防ぐ「Zフローコントロール」を装備し、泥押し・波立ちを抑えながら圃場を整地し、枕処理、夾雑物の多い圃場で綺麗な植付けができます。

3) コンバイン 従来の4条刈りコンバインの概念を変える高能率・コンパクト4条刈りコンバイン「HFC433」を開発しました。井関独自のリモコン分草杆・イージーシフト・ツインパネル・刺さり粒回収室に加え、「シーブスクレーパ」・「ツインフラップ」・「刈取バイザ」を備えたことにより、高能率・高精度な作業を快適に行うことができます。

シーブスクレーパ 選別棚のシーブ上に、往復スライドする樹脂製のスクレーパを備え、高水分の稲刈作業で付着しやすいシーブ上の藁屑を強制的に掻き落とすことにより、選別性能が常に安定します。

ツインフラップ 選別棚上の処理物の量をセンサーで検出し、選別風の風向きと風量を自動的に最適化することで、選別能力が向上し、脱穀ロスが減少します。

刈取バイザ 刈取部の引起装置の上部に、収納自在な防護カバーを備え、引起ラグによるオペレータ側への穀粒や泥土の飛散を防止することによって、快適な作業が行えます。

軽量・コンパクト・高能率を兼ね備えたパワフル5条・6条刈りコンバイン「フロンティアZシリーズ HFZ585・690」を開発しました。井関独自のツインエイトスレッシュャ・スイング&ズームオーガ・アイタッチ・多機能マルチパワステに加え、「大型ツイン防塵スクリーン」を備え、より高能率な作業が行えます。

大型ツイン防塵スクリーン 防塵網の内側に、塵埃を除去する2つの回転プレートを備え、防塵網の目詰まりを防止して吸引面積を確保し、エンジンの冷却効率を高めて、高速稲刈作業等の高負荷時でも安定したエンジン性能を発揮できます。

プロ農家の要望に応える大型汎用コンバイン「HC1100」を開発しました。井関独自の「吸排ツインファン」を備え、110馬力コモンレール式インタークーラターボエンジンの性能をフルに発揮し、高速稲刈作業等の高負荷作業を安定して行えます。

吸排ツインファン エンジン冷却用の吸気ファンとは別に、塵埃除去用の排気ファンを独立して備え、防塵網の塵埃を強制的に除去して冷却風量を確保し、エンジンの冷却効率を高めて、常に安定したエンジン性能を発揮できます。

4) 野菜作機械 野菜移植機では、植付装置に適切に供給できる連続回転式の種芋専用供給装置、マルチフィルムに開ける植付孔を最小限にして種芋の植付けに適した深植えができる種芋専用の植付装置を装備した高能率型じゃがいも移植機「PVH1-60JGX」・「PVH1-90JLLGX」を開発し、従来比1.2倍の作業能率アップと植付精度向上を実現しました。

野菜調製機では、貯留ホッパの地上高さを低くしてにんじんを投入し易くすると共に、にんじんの搬送効率を向上させた汲上搬送コンベアを備えた低床型のにんじん選別機「VSC-212WL」を開発し、労力の軽減と作業能率の向上を実現しました。

また、各地域特産物に対応した野菜作機械の研究・開発を行い、移植から調製までの野菜作一貫体系の研究開発に取り組んでいます。

2. 農機関連商品技術

コイン精米機、農業用施設に関する新商品の特徴及び今後の取り組みを紹介します。

1) コイン精米機 設置面積が自動販売機程度と小さい「省スペース仕様」のコイン精米「CPM3」を開発しました。1kgの少量からの精米処理や1ぶつきから無洗米までの幅広い精白度での処理を実現し、精米したてのおいしさを味わいたいという要望や、健康志向に添えています。また、精米前に残留玄米を排出する「クリーン装置」を装備しました。さらに、音声ガイダンスや判りやすい作業表示の採用で利便性の向上を図っています。

省スペース仕様 投入ホッパ・精米機・糠室等を効率良く配置し、設置面積を建屋式のコイン精米機の約5分の1としました。都市部や駐車スペースが狭いスーパーなどにも設置できます。

クリーン装置 精米作業の開始前及び終了後に、機内を自動的にクリーニングし、清浄な状態に維持できます。

また、建屋のデザインを一新し、上記「クリーン装置」を備えた建屋式コイン精米機「CP410」を開発しました。

2) 農業用施設 簡潔且つ安価な構造で作業能率の優れた苗箱段積装置を開発しました。また、トマト苗に適した接ぎ木クリップを開発し、軽量化及び苗接合状態の確認・修正の容易化を実現しました。

当社は、「農作物ハイテク生産システム」を愛媛大学と共同研究しており、愛媛大学での植物工場設計工学講座（寄附講座）では、高糖度トマト栽培技術の確立や「自走式植物生育診断装置を含む知的植物工場システム」の研究を進めています。

3. 海外商品技術

海外に投入した新商品の特徴及び開発の現況につき、各国別に紹介します。

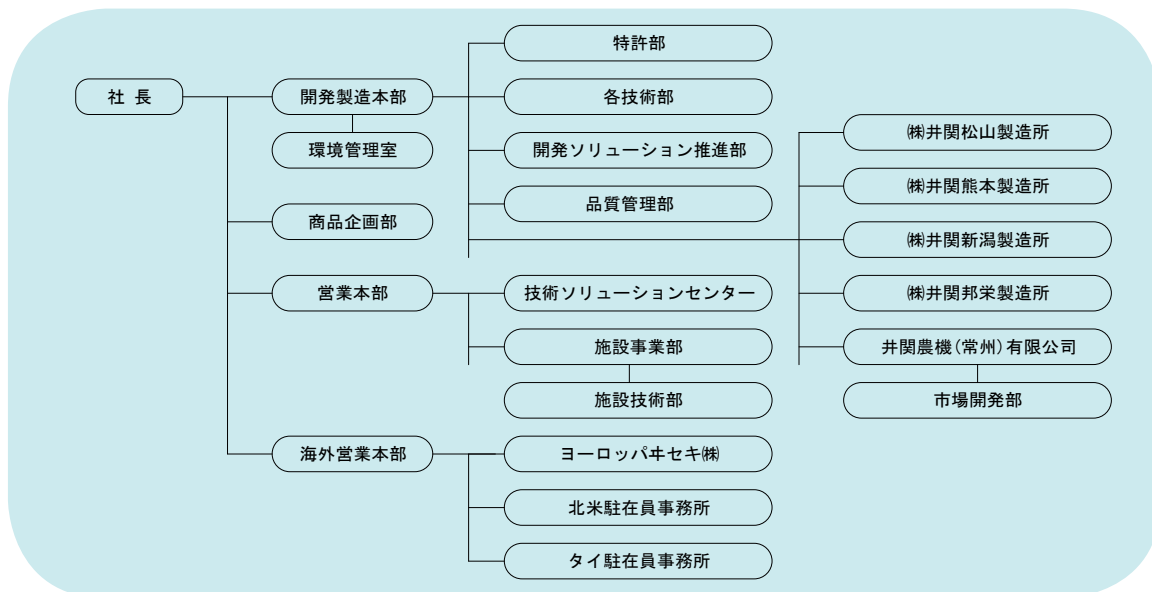
1) 欧州・北米・豪州 欧州・豪州向けに操作性を向上しコストダウンを図ったコンパクトトラクタ

TXGを開発しました。また、安全性を向上した欧州向けモータースXGを開発しました。北米向けにはローダー等重作業機装着時の操作性向上を追求したトラクタを開発しています。

- 2) **中国** 先進のZ機能である「さなえZターン」を装備した乗用田植機PZ60・80を投入しました。また、中国の農業事情に合わせた田植機を開発しています。また、高馬力・高能率・高耐久コンバインHF608・558の脱穀選別能力及び穀粒処理能力を高め、穀粒回収率と作業能率を向上させる技術を開発しています。また、中国の苗に適応した専用苗枠、中国の栽培体系に対応して無段階の条間調節機構及び多段階の株間調節機構を装備した野菜移植機PVHR2を投入し、更に各作物の栽培体系に対応する移植機を開発しています。
- 3) **台湾** 条件に応じて選択する標準モードと低燃費モードのエンジン出力カーブを採用した高性能エンジンを搭載し、現地の作業条件に適したトラクタTJVを開発しました。また、高能率・高耐久の大型田植機・コンバインを開発しています。
- 4) **韓国** 高能率・高耐久・高機能の田植機・コンバインを開発しています。
- 5) **東南アジア** マレーシア向けに、低価格で現地特有の作業条件・圃場条件に適応させた高耐久の田植機を開発しています。

5 研究開発及び知的財産体制

1. 組織図



2. 研究開発体制

1) 商品開発・技術開発担当

井関グループは、稲作、野菜作等に関連する農業用機械の開発、製造、販売を主な事業の内容とし、井関グループが展開している事業に関する研究開発は、主に当社で行っております。

2) 海外商品開発ネットワーク

当社と欧州、米国、中国、東南アジア地域との開発ネットワークにより、グローバルな技術開発の推進体制を構築しています。特に、中国に市場開発部を設置し、技術関連情報を収集するなど、海外商品に対する研究開発のスピードアップを図っています。



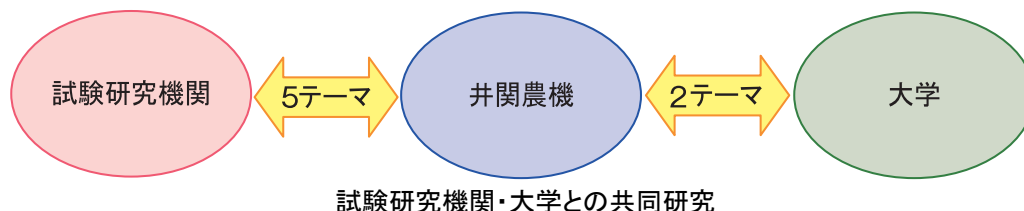
3. 知的財産体制

1) 管理体制 特許部は、開発製造本部に所属し、当社及び関連会社を含む井関グループ全体の知的財産の管理・指導・教育を行う一元管理体制をとっております。

2) 人材育成 井関グループ方針として「井関グループ総合力の発揮」を掲げ、その根幹である人材育成に注力しています。特許部員、技術者、新入社員、製造会社、販売会社に対する知的財産・創造性教育を通じ井関グループ全体の創造性の活性化と技術総力の向上に努めています。

4. 産学官連携

当社は、コア技術について、独自開発を原則としていますが、コア技術の一部やコア技術に関連する領域については大学や試験研究機関等と共同して研究開発を進め、研究開発の迅速化と効率化を図っています。



6

知的財産の取得・管理、秘密保持

発明考案、権利の取得・管理、企業秘密情報等についての取り扱いを、就業規則、職務発明取扱規程、商標取扱規程、井関グループ倫理行動規範、特許業務マニュアル等に定めています。故意若しくは重大な過失により違反した場合には罰則の対象になり、コンプライアンスの徹底を図っています。

発明者に対しては、就業規則、職務発明取扱規程、補償金支給評価基準等の運用による発明承継対価、実施補償、社内外の表彰等によって発明創作へのインセンティブを与えています。

また、発明の創作時から権利の放棄に至るまで多くの規程・基準により知的財産を厳格に管理しています。例えば、特許権の価値評価については、1995年4月に実施権利の価値を金額算定する「特許権の価値算定基準」を設け、社会通念に適合するように逐次見直しながら自社の特許資産管理や権利交渉等に活用しています。

7 特許の活用

コア技術及びこれに関連する領域にある特許権については、自社製品の優位性の確保やクロスライセンスによる商品開発の円滑化により事業を成功させることに重点を置いています。この領域外の権利については、将来の実効性を考慮したうえで、ライセンス等による活用を図るなど、企業にとって最適な手段を採用しています。

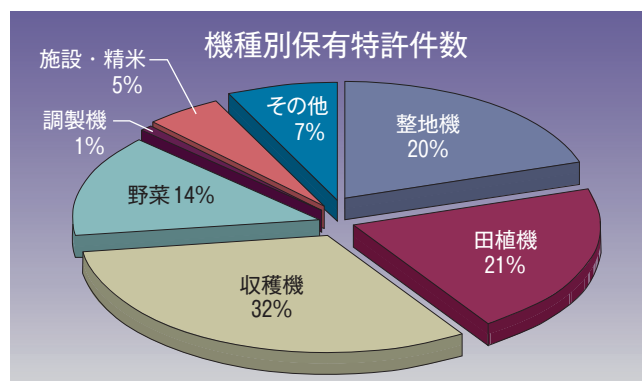
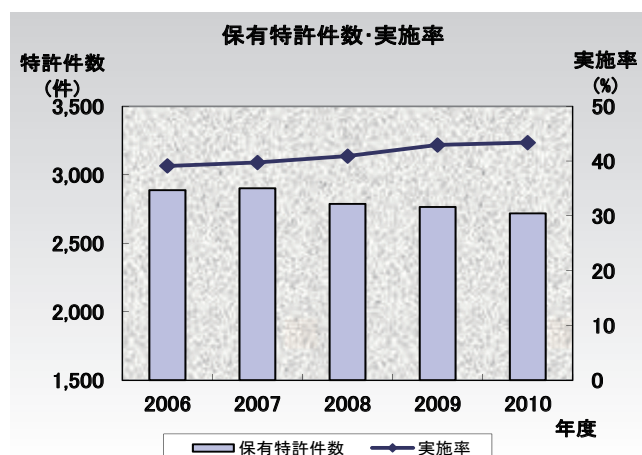
1. 特許保有状況

1) 国内

社内規程及び審査基準に基づいて厳選した発明を積極的に特許出願し、有効権利の取得と蓄積に努めております。2010年度は約2,710件となっています。

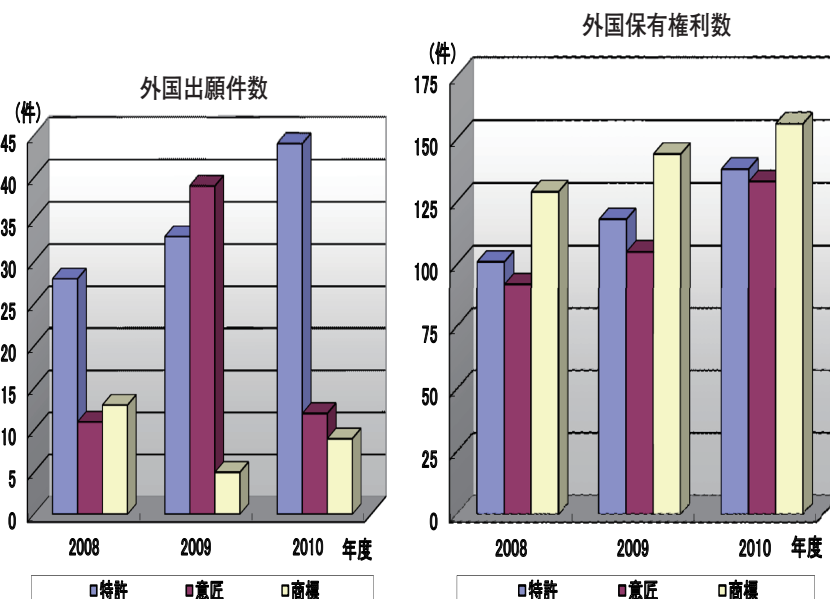
2011年3月末時点における主要3製品（整地機、田植機、収穫機）及び野菜作機械の保有特許件数は、当社全体の保有特許件数の87%を占めております。

事業戦略を重視した“強くて良い”特許網の構築を目指した知的財産戦略を実行してまいります。



2) 海外

欧州、米国、中国等のアジア諸国に厳選した知的財産の出願を行っています。保有権利数は、毎年増加しています。また、アジア地域に対しては、積極的に意匠、商標出願し、模倣排除に注力しています。



2. 特許査定率、特許出願関係

特許査定率では、7年連続で全産業中第1位です。

年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
特許査定率	84.6%	83.7%	90.4%	89.3%	85.8%	88.5%	91.8%
順位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位

特許査定率＝特許査定件数／(特許査定件数＋拒絶査定件数＋取下・放棄件数)

* 取下・放棄件数＝拒絶理由通知の後に取下げまたは放棄した件数

また、日本における分野別公開数統計表において、2000～2006年の「農水産分野」で7年連続第1位に続き、分野編成が変更された2007年～2009年は「その他の特殊機械分野」で3年連続第1位です。従って、通算10年連続第1位です。

分野	農 水 産							※その他の特殊機械		
年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
順位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位

※2009年版から分野編成が変更され、農水産分野は、「その他の特殊機械分野」に包含されます。

(特許行政年次報告書2002年版～2011年版)

3. 受賞の歴史

農業用機械技術の開発、育成、実用化による貢献に関連して国家勲章、国家褒章、科学技術功労者表彰、発明表彰、文部科学大臣表彰、農業機械学会表彰等を受賞する多くの技術者を輩出しています。

1952年には、創業者の井関邦三郎が(社)発明協会の全国発明表彰を受賞し、1993年には、当社が日本で始めて実用化に成功した自脱コンバインの開発と普及の功績として「農業試験研究一世紀記念会会長賞」(農水省、農業試験研究一世紀記念会共催)を受賞しました。

2008年には、当社の伝統である知的財産重視の経営が評価され、『知財功労賞』(産業財産権制度活用優良企業等表彰 特許庁長官表彰)を受賞しました。

(社)発明協会の表彰は毎年受賞しており、現在、全国発明表彰18件を含む189件の発明表彰を受賞しております。創業者の研究開発に対するフロンティアスピリットを脈々と受け継ぎ、知的創造活動による実用的な新技術の創出が当社の伝統になっています。

発明表彰受賞件数 189件(2011年3月末現在)

受賞内訳

○全国発明表彰 18件

特別賞	発明協会会長賞	1件
	朝日新聞社賞	1件
特 賞		2件
発明賞		14件

○地方発明表彰 171件

特 別 賞	文部科学大臣発明奨励賞(前科学技術庁長官発明奨励賞)	9件
	特許庁長官奨励賞	5件
	経済産業局長賞(四国通商産業局長賞)	7件
	発明協会会長奨励賞	7件
	日本弁理士会会長奨励賞	4件
	合計	32件
支部長賞		11件
優秀賞他		37件
発明奨励賞		90件
奨励功労賞		1件

4. 受賞関係

○(社)発明協会 平成22年度四国地方発明表彰

発明協会愛媛県支部長賞1件

特許第4088780号 田植機の旋回自動制御

発明奨励賞2件

特許第4038606号 コンバインのエア式穀粒排出装置

特許第3684839号 トラクタの作業機昇降用油圧装置

8

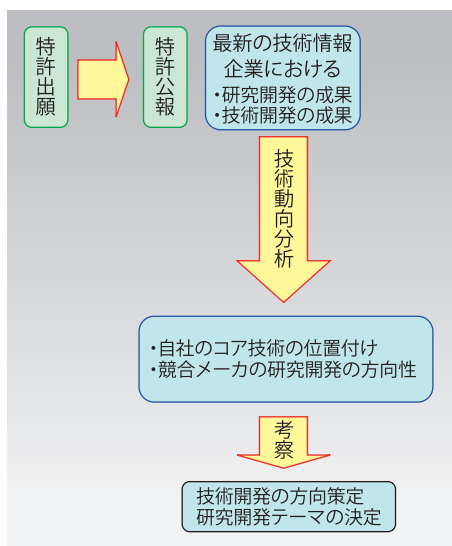
知的財産ポートフォリオに対する方針

1. 技術動向

競合他社の技術動向を分析し、自社のコア技術の位置付けを明確化すると共に、競合メーカーの研究開発の方向性を明らかにし、研究開発テーマや技術開発の方向を策定するなど、技術・企画を含めた全社の共有情報として事業戦略・研究開発戦略の構築資源としています。

2. 技術テーマの設定

コア技術、コア技術に関連する有望技術、市場動向等から開発・営業を含む全社の総意に基づいて技術テーマを設定し、明確な目標を持って特許網を構築し、商品開発のプライオリティの確保を進めています。また、自社に蓄積されたコア技術の強みをポートフォリオ評価し、研究開発戦略の策定に寄与しています。



3. 海外知的財産の構築

各国別の市場動向や知的財産状況を分析し、開発・海外担当部門と連携してグローバルな事業活動の展開に伴った知的財産戦略を定めています。また、外国特許情報検索システムを活用し、各国における知的財産状況及び技術動向等から自社技術を評価し、各国毎に実効性の高い技術を出願し、有効権利の取得と蓄積に努めています。

9

知的財産関連の訴訟情報

国内外共に経営に影響を与える知的財産権訴訟の継続中の案件はありません。事業、研究開発の推進にあたって、細心の注意をはらい、知的財産戦略を着実に実行いたします。

会社概要

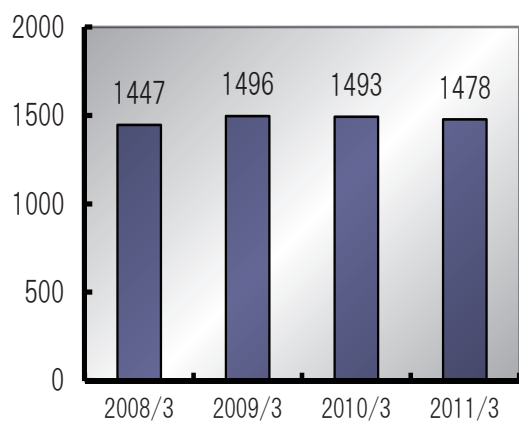
社 名	井関農機株式会社 (ISEKI & CO., LTD.)
本 社	愛媛県松山市馬木町700番地
本社事務所	東京都荒川区西日暮里5丁目3番14号
創 業	大正15年(1926年)8月
資本金	233億44百万円 (2011年3月31日現在)
従業員	連結:6,404名 (2011年3月31日現在)
事業内容	当社はつぎの製品の製造及び販売を主要な事業内容としております 整地用機械・・・トラクタ、耕うん機、管理機、芝刈り機 栽培用機械・・・田植機、野菜移植機 収穫用機械・・・コンバイン、バインダ、ハーベスタ、野菜収穫機 調製用機械・・・籾すり機、乾燥機、精米機、計量選別機、野菜調製機 その他・・・・・・作業機、補修用部品、農業用施設

開発製造に関する関連会社

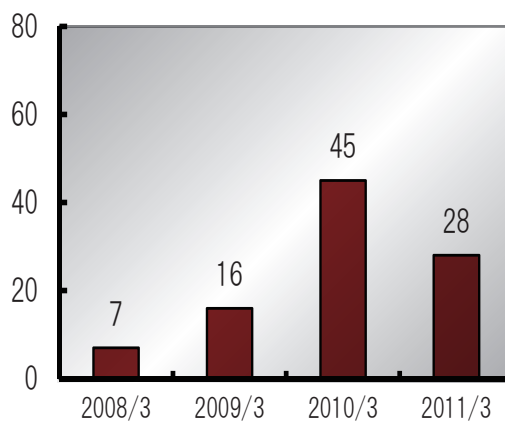
(株)井関松山製造所	井関農機(常州)有限公司
(株)井関熊本製造所	松山ファクトリーサービス(株)
(株)井関新潟製造所	(株)井関植木製作所
(株)井関邦栄製造所	

業績推移

■売上高(億円)



■営業利益(億円)





報告書に関するお問合せ先

井関農機株式会社 開発製造本部 特許部
〒791-2193 愛媛県伊予郡砥部町八倉1番地
Tel. (089)956-9810 Fax. (089)956-9818
URL: <http://www.iseki.co.jp/>
E-mail: pat-matsuyama@iseki.co.jp